

第1回次期県民運動検討委員会 議事録

○日時 平成27年7月2日(木)

13:30~15:00

○場所 県庁第1特別委員会室

【篠木局長あいさつ】

- ・平成26年度末をもって新“うつくしま、ふくしま。”県民運動が終了し、今年度は検討委員会を設置し、次期県民運動の内容について検討していただくこととした。
- ・本県は、復興に向け着実に歩みを進めている、一方で、未だ11万人を超える県民が県内外で避難生活を続けている状況でもある。
- ・このような状況のなかで、子どもからお年寄りまで、多くの県民一人一人が主体的にかかわっていくことができるような県民運動を検討いただきたい。

【委員長、副委員長の選任】

- ・事務局提案により、委員長：丹波史紀委員 副委員長：新城希子委員 を選任。

【議事】

1 次期県民運動検討委員会の運営等について

(鶴見課長)

《設置要綱について》

- ・本検討委員会は、県民を始め多様な主体の参加と連携により県民の生活をより活力あるものとしていくため、子どもからお年寄りまで広く県民一人一人がかかわっていくことができるような次期県民運動のテーマや推進方策等について検討していくことを目的としている。
- ・構成員は13名、委嘱期間は本日から平成28年3月31日。
- ・事務局は、文化スポーツ局文化振興課で担当する。

《スケジュールについて》

- ・年4回の開催を想定。
- ・第1回目と第2回目は、テーマ等について広く議論し、第2回目の終わりには、テーマについてまとめ、第3回目で進め方等についてより具体的に検討していただきたい。
- ・その後、報告書(案)を固めていただき、1ヶ月程度のパブリックコメントを経て、第4回目で報告書のとりまとめをしていただきたいと考えている。
- ・議論の進行状況によっては、スケジュールの変更もありうる。

2 これまでの県民運動について

(鶴見課長)

- ・ Fukushima国体、うつくしま未来博をシンボル事業としてⅠ期、Ⅱ期は県民総参加の取組を実施。
- ・ Ⅲ期は、県民が自由に参加して創り上げていく、県民本位の運動を展開。
- ・ Ⅳ期は、「地域コミュニティの再生」を基本テーマとし、「子育てしやすい環境づくり」環境問題への対応「安心安全な地域づくり」を重点テーマとして展開した。
- ・ Ⅰ期Ⅱ期は、シンボル事業を見据えた運動を展開し、Ⅲ期Ⅳ期は、県民本位や多様な主体による展開に重きをおいて県は支援してきた。
- ・ Ⅳ期は、テーマが多くわかりにくい部分もあったが、これまでの県民運動は、そのときどきの本県の状況に合わせた取り組みがなされたという共通点があると思う。
- ・ 子どもからお年寄りまで、多くの県民一人一人が主体的にかかわっていくことができるような県民運動を検討いただきたい。

3 次期県民運動のテーマ等について意見交換

(森合委員)

- ・ 福島県保健衛生協会は、県内自治体を中心に健康診断を請け負うなど、健康づくりのための総合的団体である。
- ・ 婦人団体連合会、JA 婦人部、商工会女性部と「健康を守る婦人連盟」を組織し、その事務局を担っており、「学びと実践・健康長寿は家庭から」をスローガンに積極的に取り組んでいる。
- ・ 県民運動について論点は2つある。①これまでの県民運動とこれからの次期県民運動の関わり方の整理 ②次期県民運動の名称、内容、テーマ等をどのようにしていくのか
- ・ これまでの県民運動を否定するのではなく、次期県民運動でも底辺に流れる基礎（これまでの県民運動の理念）があって新たに重ねていくイメージを持っている。
- ・ 次期県民運動については、わかりやすく、前向きになるメッセージを盛り込むでみるのがよいのでは。
例えば、「チャレンジふくしま県民運動」などいろいろな立場で自分なりに挑戦していただけるものであって欲しい。
- ・ ターゲットとしては、直接ではないが2020年東京オリンピック・パラリンピックをゆるやかな目標として盛り上がっていくのがよいのでは。

(増子委員)

- ・ 今までのものを継承しつつ、新たなステージへというイメージを持っている。
- ・ 地域コミュニティとか花いっぱいとか、ゴミのないまちづくりとか身近な環境にあると気持ちよく過ごすことができる。

- ・障がいのあるなしに、かかわらず参加出来るもので、家族、友人、周囲の人と日常生活の中で一緒にできること。
- ・復興も次のステップに行こうとしていることを踏まえ、新しいものも加えていかないといけないのでは。
- ・復興関係でゴミが多くなってきたので、ゴミのないまちづくりを復活させたい。
- ・震災以降、節電で夜暗く、車椅子などは車等から見えにくい。太陽光発電を使った明るいまちづくりがあると、足下も照らされてお年寄りも子どもも、障がいのある方も安心して歩けると感じている。
- ・未来をつなぐ夢と希望、スポーツコミュニケーションをとおした何かとかキャッチコピーも膨らませてきた。このようなことも踏まえて、子どもから、高齢者、障がいのある方、すべてにおいて参加できるような内容を考えていきたい。

(本多委員)

- ・レクリエーション協会では、仮設住宅訪問を続けている。
- ・原発から学んだことは多い、復興というかけ声はよく聞くがそれに甘えず、原発災害から学んだことをより活かして、県民がこれからどういう風に生きていくべきなのか考えてテーマにしていくべきなのでは。
- ・例えば、福島県は、子どもの体力低下など様々な面でマイナスがでている。
- ・被害者意識を表に出すのではなく、学んだことを活かしていけるテーマにしていきたい。

(花見委員)

- ・東京オリンピックは、一つのスケジュール的な目標・ターゲットである。
- ・考えるにあたっては、50年後、30年後の福島を見つめて、5年後をどう持って行くかの視点が必要。
- ・心の復興、精神的な県民のベクトルを合わせる、精神的な支柱として取り組んでいくべきでは。
- ・2020年5月に全日本広告連盟全国大会が開催される。震災から足かけ10年で、全国のマスコミにふくしまの姿を見てもらいたいと考えており、何か運動できればと考えている。

(新城委員)

- ・東日本大震災を織り交ぜながら、目指していく希望をテーマにしていく。
- ・遠い将来目指すべき姿と近い未来目指していく姿を照らし合わせて、わかりやすくある程度明確にしていければよいのではと思っている。
- ・シンボルというわけではないが、ある程度5年で想定できる、オリンピック・パラリ

ンピックや植樹祭等大きなイベントを県の方から示してもらって、合わせながら検討していけばよいのではと思っている。

(齋藤美佐委員)

- ・コミュニティの再生という視点から始まっていることを踏まえて、これまので検証をしたうえで、中長期的なこれからの県民運動のビジョンを立てていかないと行けないと思う。
- ・東日本大震災以降、福島に必要なのは、学びと強さ。学んで強くなっていくことが自らを守り次世代を育てていくと考えている。
- ・NPO活動をとおして考えていることは2つある。①地域の実情に合わせて活動しているNPOの力を付けていくこと。②地縁組織を見直して、地縁組織の強化をしていくこと。
- ・地縁組織の強化は、防災にも直結するため、県民運動として町内会の見直しに取り組みたいのではと考えている。
- ・共助社会の醸成が組めるような、わかりやすく目指しやすいビジョンが5年、10年のスパンで立てられ、30年後の理想を語るビジョンづくりが大切ではないかと感じた。

(齋藤千恵子委員)

- ・県老人クラブ連合会は、会員数約10万人の団体である。
- ・高齢者の視点でこの県民運動を検討していくのが使命と思っている。
- ・福島の高齢者の願いは、①自分の健康 ②家族の健康 ③経済(お金の問題)である。
- ・県民全体の健康づくりというものを運動の中で醸し出していけたらよいのでは。
- ・地域づくり、高齢者の方が作ってきた、ふるさとを後世に繋いでいけるイメージのものがあつたらよいのではないかとと思っている。
- ・「うつくしま、ふくしま。」のキャッチコピーを継承するのか、新しいものにしていくのか考える必要がある。
- ・高齢者は、難しいことはわからない。誰もが理解でき、共有できるものを作らないと、行政だけが主導して満足するものになってはいけない。

(菅野委員)

- ・論点は2つある。①原発災害5年目で節目であり、課題問題が細分化されてきている。②被災した人としていない人、避難している人としていない人の間で、溝、軋轢、誤解等が生まれている。こういうことを解消していく、そういう視点に立って県民が一丸となって取り組めるものを考えていければと思っている。

- ・例えば、2040年に福島県全部を再生可能エネルギーでまかなうことを目標としている。原発事故のあった唯一の県として、再生可能エネルギーにまつわる取組を考えていければ。
- ・県外に発信することが非常に大切。知事が先頭に立っていろいろな活動を県内外に発信している。県民一人一人が県外の人に向けて発信していかななくてはならない。福島から離れれば離れるほど、福島の実情は伝わりにくく感じている。こういうことも踏まえた県民運動も考えてみるといいのでは。

(石井委員)

- ・県民運動ってこういうものであったかと。(Ⅳ期の)重点テーマは、県民がやることではなく、行政がやるべきことに見える。
- ・県民、団体、企業が県民運動を実施するときに動いていることが見えて、成果が自分に跳ね返ってこないとやれないのでは。
- ・県民が小さなことでも参加していけるものの方がよい、大きく構えるのはどうか。
- ・参加しやすさという点で考えると(Ⅳ期)重点テーマは県の施策課題である。
- ・原発の問題があって非常に健康に関心が高い、メンタル含めて健康は大切である。
- ・企業としても、従業員の健康管理をメンタル含めしっかりしていき、従業員が健康であれば幸せであり、会社も業績があがりいいこと。
- ・血圧が高い等悪いデータを見せられた、県民運動をやれば自分も幸せになれる形がよいのでは。

(菅野委員)

- ・「うつくしま、ふくしま。」という名称は、いかがなものかと思うので、検討すべきである。

(委員長まとめ)

- ・これまでの県民運動のよさを継承しつつ、次への一步を踏み出せるような新しいテーマを見いだしていきたい。
- ・県民一人一人がわかりやすく、理解していけるようなテーマにしてはどうか。
- ・「うつくしま、ふくしま。」という名称をどうしていくか、今後の議論になる。
- ・将来へのイメージ、30年後、50年後を頭の片隅に入れながら、行政のテーマではなく、県民一人一人がテーマにしていけるものがよいのでは。
- ・具体論では、災害がテーマというのは多くの発言があったが、前向きでチャレンジしていけるような、健康、スポーツ、アクティビティ等チャレンジしていけるような内容があってもいいのではないか。

(委員長)

- ・ 第一回なので、テーマを決定するのではなく、イメージを共有していきたいと思っている。
- ・ 県民の課題にきちんとマッチしていれば、県民一人一人のテーマとして理解してもらえるのではと考えている。

(花見委員)

- ・ ある程度できあがったものを追認するようなパブリックコメントをするのではなくアイデアの段階から県民が参加し、県民が自分達で考えて出来上がった県民運動であるという、そういう要素があったらいいのではと思っている。

(委員長)

- ・ 自分たちで決めたということが、自分たち一人一人が責任をもつことに繋がり、一人一人のテーマに繋がる。
- ・ 決めていく過程の中に、県民一人一人が関わっていけるというのは大切なこと。

(本多委員)

- ・ 今までの県民運動を何%の県民が知っているのか疑問である。
- ・ つくり上げていく中で県民の意見を吸い上げて、浸透させていくことは非常に大切。
- ・ 県民運動である以上は、誰かがやるのではなく、自分が何らかの形で関われるものがないと県民運動にはならない。
- ・ 身近で簡単にやれるものが大切であると感じている。

(新城委員)

- ・ あくまで、例えばですがキャッチコピーを募集するとかすれば、県民がどのようなことを望んでいるのかわかるかもしれないのでは。
- ・ 女性経営者20～30人が東京の女性経営者と話す機会があったが、県内の地域によって出来事を感じ方が全く違い、ここが大きな問題であったと感じた。例えば甲状腺の問題とか、東京の人に伝えるとき同じ県の中で伝え方・内容がこんなにも違うものかと感じた。
- ・ 心の分断のようなことがじわじわと大きな問題になってきていると感じた。県民運動として根っことしては、福島県はこれでしょうということをみんなで感じとっていけるようなものがないのでは。

(齋藤美佐委員)

- ・ 県民運動の必要性を検討委員で共有しないと進んでいかない。
- ・ 県民運動をすることで、福島県がどうなりたいか、県民一人一人の幸せはこういうものであるというものを共有しないとテーマを決められない。
- ・ 県民運動ありきではなく、必要とこうなりたい福島というのを共有する場がここであると理解している。

(森合委員)

- ・ 「“うつくしま、ふくしま。”」という言葉は、県が長期総合計画で掲げた長期イメージを端的に表すものとしてコピーライターに作成してもらったもの。県の将来イメージ「“うつくしま、ふくしま。”」というものがあり、その時の県民運動の冠に「“うつくしま、ふくしま。”」として付けられた。県の大きな流れの中で、県民運動が位置づけられてきた。
- ・ 次期県民運動も総合計画、復興計画等の全体像のなかでの位置づけを行政の中で示すべきではないか。
- ・ 県の流れや大きなイベントを示してもらった方が、県民運動の位置づけが見えてくるのでは。

(石井委員)

- ・ 震災があって、「“うつしま、ふくしま。”」から「ふくしまからはじめよう。」に変わっている印象がある。

(委員長)

- ・ 総合計画、復興計画、総合戦略など県の施策があって、県民全体の課題があって、それがマッチしているのも大切である。「ふくしまからはじめよう」が浸透すればスローガンになってくるのでは。
- ・ 5年、10年とか期間を定めた場合、福島県全体として取り組んでいくべき課題が一番わかりやすく県民が共有できるテーマの議論が必要なのでは。
- ・ 次回以降、県の施策とも合わせられるように検討していければと思う。

(菅野委員)

- ・ 県民運動スタートの具体的な資料を示して欲しい。
- ・ 県民運動の意義、成り立ちを具体的に教えて欲しい。
- ・ IV期県民運動の検証、効果等を示していただきたい。

(事務局)

- ・ 次回までに、県の施策と重ねられる資料、直近の県民運動の成果、県民運動スタート時の資料を可能な限り用意したい。

(増子委員)

- ・ 2020の東京オリンピック・パラリンピックに絡めた形もいいが、オリンピック・パラリンピックの競技実施などはハードルが高い。
- ・ それを絡めて関連事業として、流れをもって行って、地域の運動をとおした、コミュニティの再生、高齢者の健康、子ども達の体力向上などに絡めていけるのではと思う。
- ・ 福島で1次予選リーグ等話があったが、運動に関わりのない人でも、観光・食文化等を含めて福島に来てよかったと思えるようなおもてなしを絡めていければいいのでは。
- ・ 2020年は、非常に重要になってくる。全部関連づくのではと思う。

(委員長)

- ・ 思いは共通していると感じた。今日の事務局への宿題を踏まえて次回検討していきたいと思う。